

聖句

うつりゆく  
時とわが身はうつるとも  
こころひとつは なむあみだ佛  
弁榮上人

# 眞生

第78卷473号

<http://canchiin.net>

1・4・7・10月15日発行

【発行所】  
眞生同盟本部  
〒105-0011  
東京都港区芝公園  
2-2-13 観智院

【振替】  
00160-6-80674

【電話】  
03(3431)1450

【Email】  
shinsei@canchiin.net

【編集兼发行人】  
土屋 正道

会費 年額 2,000円  
一部 100円

# 光寿無量

萬代と祝ふもしばしかぎりあれば  
無量寿佛の御名ぞ目出度し

弁榮上人

平成三十一年元旦

眞生同盟主幹 観智院住職 土屋 正道  
眞生同盟役員・観智院 法類・檀信徒総代一同  
由惠・遙・法道

## 如來の慈光を宣揚する

正道

本年は、光明主義を提唱された農家に生まれ、一九二〇年大正九年山崎弁榮上人百回忌に正当します。年に柏崎で遷化されました。觀琇ご存知の通り、弁榮上人は眞生同盟初代主幹土屋觀道上人が、直接の師匠中島觀琇上人の許しを得て、増上寺山内多聞室（現多聞院）にお招きした近代の高徳です。一八五九年江戸時代安政年間に千葉の

学園、大乘淑徳学園、弁榮上人記

念館など弁榮上人と縁の深い方々が、百回忌に大同団結して「山崎弁榮上人讚仰会」を組織し、上人の遺徳をたたえ、より多くの方に称名念佛の教えを宣揚する諸行事を企画しております。眞生同盟会員の皆様にも多くの淨財を賜り厚く御礼申し上げます。運営にあたる「山崎弁榮上人百回忌実行委員会」に眞生同盟より私と酒井正空師が参画しています。企画につきましてはすでに趣意書をご覧いただいたと存じますが、ホームページ「念佛三昧の聖者 山崎ムページ」「念佛三昧の聖者 山崎弁榮上人 Bennei Yamazaki」(<http://www.bennei.net>) が十一月より開設されました。どうぞご覧下さい。「上人の教え」、「如來光明礼拝儀」（光明会で使われているもので、「眞生礼拝儀」より新しいバージョン）。主要部分は読み方、助詞の使い方が異なる程度）、現代語訳（眞生同盟一味会の関谷喜與嗣上人の訳、為先会の金田昭教上人の訳）、のほか世界の方々に

宣伝するため、英語訳、中国語訳、ポルトガル語訳も載せていました。その他「上人の美術」として書画・米粒名号などを分類して写真を掲載、解説を付けました。また、「逸話」「歴史」「縁者」「知る」というページを設け、観道上人は「縁者」のところに弁栄上人に影響を受けた人物として『大悲に生き』一七五〇一七九頁の文章を載せています。(昨年、観道上人五十回忌を記念してDVDにいたしました。送料込み千円です)

画を展示します。

○五月一一日～一九日

「行誠と弁栄」展 両国回向院 全国の千点以上の書画より厳選した優れた書画を展示します。

観智院・多聞院からも出品予定。

○一〇月一一日～二〇日

念佛フェスティバル 増上寺で 十日間の別時念佛会

合わせて講演会、演奏会、落語会なども行います。「現代のテクノロジーが伝える称名念佛」をテーマにアートイベントも企画中です。

本年は増上寺中興の観智国師存

応上人四百回忌にもあたります。

当院は上人が隠棲したところから後に「観智院」と名乗るようにな

りました。また増上寺の開山聖聰

上人の師匠聖問上人の六百回忌にあたり、増上寺主催でそれぞれ

講演の一コマを担当します。

一二日 音楽法要・講演・シン

ボジウム

一三日 遺跡参拝 観智院・多聞院もコースに入り、所蔵の書

行事につきましても今後お知らせしてまいります。

私は一九五九年生まれ、弁栄上人が、二一世紀の混迷の世界に少しでも称名念佛の教えが広まるよう

人生誕の百年後に生まれました。今年六〇歳還暦を迎えます。

努力したいと念願しております。宗教的天才でいらした弁栄上人の足元にも及ばない凡愚の者ですが、二一世紀の混迷の世界に少しでも称名念佛の教えが広まるよう

## 光明と眞生(一)

土屋 観道 上人(眞生同盟初代主幹)

一

普通ランプの光明とか太陽の光

明と云えればすぐ判るのであるが、

これに引きかえて如来の光明とい

えば一寸判りにくいものであります。

否、それどころか自分にはよ

く判かつたつもりでも、中には

反つてこれを誤っている人さえな

かなかに多いのであります。

これは多くの人々がランプの光

明や太陽の光明を以つて、如来の

光明を連想するからであります。

しかし如来の光明は肉の眼で見る

ことのできるものではないのであ

ります。

そもそも如来の光明とは如来の

智慧と慈悲とを一つの光明に譬え

たのであります、決して物質的

太陽やランプのような肉眼で見る

光ではないのであります。もっと

も近頃では眼に見えぬ光というよ

うなものもありまして、太陽の光

やランプの光もその源を尋ねれば

一種の力として、エネルギーに還

元し、さらに遡つて宇宙の大生命

にまで帰すれば、この太陽の光も

ランプの光も悉く如来の光明であ

るということができないわけでは

ありません。けれどもそれだから

といつて如来の光明ということを考

ることは主客転倒と言ふべきで

あります。

ところで如来の大慈悲は衆生（吾々）の闇を照らすが故にこれを物質的太陽やランプなどの光明に譬えて光明と云つたのであって、決して物質的光明を言うのではないであります。

## 二

然らば如来の大慈悲はどんなかと云えば、それは一切衆生の苦悩

を慰する慈悲光であります。また衆生の無智を無明とし、この無智

を照らすの光明としてこれを智慧光とも申します。智慧と云えば宇宙の道理を諦めるの智であります。

小乗教では諸行無常、諸法無我の道理を明らかにする智慧であります。これは宇宙の真理と云つてもよい。そうしてこの道理は処して到らざるなく、また照らさざる所がないのであります。すなわち一切の諸法は皆一として無常にして無我でないものはない、一切は常に変化し、一切は皆無我であります。

しかもこの無我の道理はそのまゝ万法の縁起を示すものであります。一法として宇宙の大法にして、一法として衆生の縁起を示すものであります。その子はそれをよつて縁起せられ、また帰趣せられぬものとはないのであります。これをやさしい言葉で云えばこの世のもの一つとして、如来のみ力をもつて衆生を救ふる慈悲の力と云ふべきです。

この世の中は如来の御力と御恵みとによって一切が生き働きあることを得ているのである、これなくしてはいかなるものも生存し发展することはできぬのであります。そしてこの宇宙の統制を如來の智慧となし、この如來の御恵みを如來のお慈悲とするのであります。したがつて、この宇宙の統制と恩恵とは天地到るところに充ち満ちて、何處として到らぬ処なき故に、如來の智慧と慈悲との到らぬところもまたないのであります。それをただ吾々凡夫は知らないのみであります。

それはあたかも慈愛に満ちていまる母親の赤子に対する心のごときものであります。その子はそれを知らずとも母親の智慧と慈悲とは限なくそれに注がれているようなものであります。凡夫は智慧浅くしてそれを知らぬのであります。そしてそれを知らないがために、この世を常住と見、この身を我なりと執して我他彼此この見に堕して鬭争常に止まぬのは凡夫の生活であります。

この宇宙の道理に闇いのを衆生の無智と云い、この無智を指してこれを凡夫の無明と云います。そしてこの宇宙の統制を常住の三毒と云い煩惱と云い、吾々の心を闇くするがゆえにこの心の生活を衆生の闇の生活とも言うのであります。（続）

## 生きた如來様

（『華開いて佛を見たてまつる（下）』より）

土屋 光道 上人（眞生同盟二代主幹）

阿弥陀仏について、昔より、幾多の諸經・論釈があり、各種の仏身説・仏格論がありますし、特に淨土宗義に定められた解釈もあります。それを現時点に受けとて、現代人の理解に役立たせる術

を知らぬわけではありません。しかし、いかに既成の概念に再解釈を加え、旧式の概念に新装をほどこして、現代に納得され理解されるよう工夫説明したところで、それで阿弥陀仏が信ぜられ、信仰に導かれたという結果は得られません。その誤解不信は根強く一般化しているのです。

じゅうして「ただ一向に念佛して」と勧められ、端的に阿弥陀仏に帰命する実際経験に信仰の中心をおかれたのであります。

現代と昔とを問わず、宗教の根本問題は、生死と罪惡の二つであります。あらゆる人間に共通な根本要求は、死にたくない、よくない、いたくないといふ二つであります。即ち、永遠の生命と無限の向上であり、不滅の自覺、価値の生活に生きたいという願いであります。そして、その究極的な実在と価値への志向が自覺的に強まるだけ、逆に現実の自己が刻々と死に限定された不安な存在であり、日々の行為が理想に背反する罪と惡とに穢れた所業の連続であるかが痛烈に反省されて来ます。ここに、道を求めて未だに得られざる、求道苦悶があり、罪惡生死の凡夫の慚愧悔恨の悲痛な歎きが身を裂き、心を責めるのであります。

然界に眼を開く時、日月をはじめ  
大空にまたたく星座、遙かなる時  
間、広大無辺なる宇宙、そしてそ  
こに秩序整然たる法則と想像を絶  
する巨大なるエネルギーが働き、  
更にその同じ力と法則が一匹の蟻  
にも、極微の素粒子の世界にも及  
ぶことを知るに至つて、その神秘  
の前に襟を正し、莊厳の感に包ま  
れざるを得ません。そして、この  
小さな有限の自己が、この天地の  
力と法則を別にして存在せず、こ  
の一個の私を生かしめんが為に無  
限の過去からと、無限の空間との  
因縁が重々無尽に働いて、單なる  
に父母の御恩やお蔭どころでなく  
天地法界一切が総ガカリで自分を  
生き活かしている事実を直感させ  
られる時、我れ知らず合掌し、今  
すでに、永遠の生命と無限の光明  
の真只中に生かされてある感激の  
念が、声の念佛となつてほとば  
しつたのであります。

大自然界に働くこの他力妙用を発見し、究極するところ、その大生命と自己とが一つである原理を念佛の中に実感することが、最も大切のことです。

ている方ではありません。如来様はいつでも真如から来生し、如来して、この私どもを「如来」にして、ようと働いている生きたお方であります。永遠から永遠へ、一切のものとなり、すべてのものを夫々に存在せしめ、活動させ、変化させてゆく、そのモノで、しかもこのモノは、総ての物が聚つてこのモノを造り、このモノとなつてい

るモノで、大宇宙総ての調和統合

結集であり、一切の存在の根拠で

あり、究極的価値であります。

本来このモノ自身は、如何よう

に名付けようもない、不可思議、

不可説なモノであります。そこ

で、無限なり、無量なり、偉大な

りと讚歎するのが「ナムアミダ仏」、

ナム無量寿、無量光となつたので

あります。諸仏の中の一仏でなく、

宇宙大本仏、一切諸仏万法の本地

であつて、天地法界の一々がアミ

ダの中にアミダ化されて行くのが

念仏で、この私どもも、そのみ力

とみ恵みの「他力妙用」の創造的

進化の働きによつて存在し、生き

働きを得ている。従つて念仏の中

にこの力が内に自覚されるところ、

自然と望みと喜びに活き活きと働

かずにおれなくなるのであります。

ここに信仰が活動となり、宗教

が生活となつて働き出て來るので

あり、ここに眞実に生きる人生の

真意義、使命觀が自覺されます。

いくら念仏しても活き活きして

## 生活を拝む（『生活線上の宗教』より）

中野 拙子（善英）上人

宗教は、神や仏を造つて祀ることでは無い。

神尊やキリストは神や仏を祀ら

れなかつた。

寧ろイエスは盛んに偶像打破を

叫んで、それが為に十字架に掛け

られ、死刑に処せられた。神尊は

樹下石上に坐禪をして、天地と感

こない、いくら拝んでも生活が張り切つて来ないのは、念仏が死んでいるから、死んだ仏様を拝んで必ず自分が「生き生き」してこずにはおれない。自分の中

にアミダ様が働き出して、アミダの大道を進ましいただける、そ

こに初めて生きた如来、無量寿仏として本当に拝めたのです。死ん

だ仏様や、他人や自分がこしらえた化仏を祈つたり、拝んだりして、

何かしら有難い気分になつたり、

この生きたアミダ様が、外ならぬ私自身の内外に、寸時も離れず

働いている実感、お念仏を通して

それを実感体験するそれなしに現

代的理解を云々しても所詮無駄だ

と思ひます。

御利益があつて苦しみが遠のいたように思えても、それはその場のになつて、盛んに神を祀るようになつた。仏教も神尊の滅後、神尊をモードルとして多くの仏菩薩を

ぬ活力と、汲んでも尽きぬ慈愛とが日々の生活の上に溢れ出てまいりません。

万神を立てて神々を拝んでいる。

然しそういう神様とか仏様とかいぬ人格的な存在が、ドコかに居ら

う人格的な存在が、ドコかに居ら

れるのではない。中には極楽に居

られるとか、天国に居られるとか

見て来たようなウソを云うが、そ

んな天国地獄が有るのではない。

大自然の現象は、大は宇宙天体の運行から、小は原子の活動に至るまで整然たる秩序の下に、神秘の極まりない、相互一体なる大進化活動をして居ることを見る時、

この原理に基づいて、万有が統一的文化活動を自ら営むことは、当然の義務であり、自然の自覚であります。コレが「宗教心」であつ

て物本来に根本的に具有するのであります。總てのものは、自然に

宗教心に目醒め、宗教にならねば

ならぬようになって居る。

この心持ちから、鶏卵一個を喰うのも、鶏の「お陰」だからと思って鶏を可愛がり、鶏に酬い、水一杯を呑んでも、水の「お陰」だからと思つて水を大切にし、水を活かし自己を生かす。これが宗教です。

## 秋彼岸会参加者

九月二十二日(土)

大吉	小黒	廣萩	久藤	北野	矢江	田中	諸澤	中村	東浦
橋田	高田	原島	澤昌	久米	崎勝	典幸	正俊	立道	正恭
英晶	三津代	雄清	裕彦	利恵子	利彦	喜美子	神奈川	神奈川	西浦
和子	田敏	敦子	吉一	昌子	静代	弘	由惠	玉	正石



秋彼岸法要

期間中、会場には73名の方々がご参加下さい、共に念佛行に励んだ。秋彼岸法要は、多くの信者が参詣して、亡き先祖や故人を偲んでいた。また、多くの信者が参詣して、亡き先祖や故人を偲んでいた。

## 第七回「京都の中心で仏の名を称える」

清淨華院

二十四時間不断念佛会

二〇一八年九月二十九日(土)

十三時～三十日(日) 十三時にかけて第七回「京都の中心で仏の名

を称える」清淨華院二十四時間不斷念佛会を開催いたしました。台

風二十四号が接近する中、来場くださった方々、また念佛中継をしてくださいました。台

陰を持ちまして無事成満となりました。誠にありがとうございました。

同・応援してくださった方々のお陰を持ちまして無事成満となりました。誠にありがとうございました。

た。

み、また内外合せて十二ヵ所から念佛中継をインターネット配信いたしました。

二十四時間不断念佛会は、念佛によってつながれる和合の集いができることをを目指して、今後も続けていくことを念願しております。

願い申し上げます。

合掌

念佛中継会場

九月二十九日(土)

◆十三時～

ラハイナ淨土院(ハワイ)

原 源照上人

◆十四時～

コロア淨土院(ハワイ)

石川 広宣上人

◆十五時～

清淨華院大殿

◆十六時～

スタッフオードシャー  
(イギリス)

アンドリュー・ウッド氏

◆十七時

林海庵（多摩市・東京）

笠原 泰淳上人

◆十八時

法城寺（碧南市・愛知）

石川 乘願上人

◆十九時

阿弥陀寺（オーストラリア）  
ウイルソン 哲雄上人

◆二十三時

ヨーロッパ仏教センター  
(フランス)

◆九月三十日（土）

高僧 光隆上人

◆二時

ハレイワ淨土院（ハワイ）

江崎 晃司上人

◆三時

クリチバ日伯寺（ブラジル）

大江田 晃義上人

◆八時

長昌寺（大分）

今井 英之上人

◆十時

観智院（東京）



清淨華院 大方丈

## お知らせ

第十四回「東京の中心で仏の名を呼ぶ」増上寺二十四時間不断念佛会は、事情により五月開催ではなく、四月二十七日（土）十三時～二十八日（日）十三時を予定しています。

## 法然上人二十五靈場参拝

二〇一八年十月十七（水）

～十九日（金）

## 旅程

第六番 難波・四天王寺→第七番  
難波・一心寺→第八番 紀州・報恩講寺→第九番 飛鳥・當麻寺奥院→第十番 飛鳥・法然寺→第十  
一番 大和・東大寺指國堂→第十  
二番 伊勢・欣淨寺→伊勢神宮→伊勢・慶藏院  
巡拝参加者 東京 諸澤正俊 土屋正道

念佛の声響く

愛知 水谷 雅豊

2回目に引き続き、今回も楽  
く参加させていただきました。

私は、どの靈場も別の団体で  
行つたことある寺院ばかりですが、  
さすが観智院様の一行。お念佛の

声が違う、といつも思います。維

那の木魚に合わせて、皆のお念仏の声が秋の御堂に響き渡り、今回も、その中に身を置ける自分のご縁に、感謝させていただきました。



難波・四天王寺

欣淨寺様では、大きな阿弥陀様のすぐ前に立ち、慈悲深い眼差しに見つめられ、攝取不捨の思いを確信できました。

「今日は、ご詠歌でお寺さんに行  
く」「○○さんが、亡くなられた  
からお唱えに行く」と聞いていた  
私。「ご詠歌って何?」と思つて  
いました。

主人と結婚し、いろいろ不安を感じていた事もあり、お寺の霊開気に触れる機会、「きっかけが欲しい」と悩んでいた時に、知人から

かけで、二〇一五年一月より毎月  
一回「観智院 仏教音楽教室」が  
始まりました。

「お寺のご詠歌に一緒に行かない」と声をかけて頂きました。

二〇一七年、夫が発起人となり、二十五靈場巡拝団参が始まり、今

A black and white photograph capturing a group of approximately fifteen people, mostly men, standing in a row on a stage. They are dressed in formal attire, including suits and traditional robes. Each person is clapping their hands. In front of the group, a long table is draped with a white cloth and holds several small, rectangular offerings. The background is dominated by a massive, intricate mural of a seated Buddha. The Buddha is depicted with a serene expression, wearing a traditional monastic robe. A large, luminous circular halo surrounds his head, radiating outwards with concentric lines. The entire scene is set within a grand hall, characterized by a high ceiling and multiple recessed lights.

難波・一心寺

「あ！ そうか。ご詠歌がある」

回が二回目の団参でした。

今まで他の団参に何回か参加してきましたが、この団参では十数名の方のお世話をさせて頂き、「念佛詠唱奉納」を第一の目的として念佛精進を心がけています。

今回は、六番～十二番靈場と観智院に御縁の深い慶藏院様計七ヶ寺と伊勢神宮（内宮）を二泊三日



飛鳥・當麻寺奥院



飛鳥・法然寺

④往生院は、知恩院の奥の院として選ばれ、景色が素晴らしいお寺でした。庭園は落ち着いた奮闘氣で、めずらしい黄色の彼岸花を見る事ができました。

二日目は、奈良、伊勢の靈場を巡拝しました。

⑤香久山法然寺は、地元に根づいたおちついたお寺でした。詠歌を唱え、癒された時間を過ごさせていただきました。

⑥東大寺指図堂は、東大寺の奥にあり、大仏殿復興設計図を収めたお堂です。詠唱を唱えている時、言葉では表せない有難い気持ちになりました。



伊勢・欣淨寺

で巡拝しました。二十五靈場も、折り返しとなり、この団参でご参加頂いた方との出会いを大切にし、詠唱巡拝にご興味がある方などにお声がけしつつ、皆さんと一緒に残りの靈場巡拝を無事に成満できる事をを目指し、観智院支部「仏教音楽教室」に参加し続けていければと思います。

一日目は、新大阪駅で集合。大阪、和歌山の靈場を巡拝しました。

①最初の四天王寺は、聖徳太子ゆかりのお寺で、他宗の上人方とも縁が深い大寺院です。ゆっくりと参拝ができてよかったです。

②一心寺は、本堂工事中で千仏堂に参拝いたしました。千体の仏像に迎えられ、時計回りに三周すると、過去現在未來の煩惱が消除されると言われ、十二支のネズミから三周ですが、時間の関係で一周だけいたしました。

③和歌山の報恩講寺さんは、尼僧様がお守りされています。お寺に近くの高台にある「休暇村」に宿泊。翌朝、御朱印をわざわざお届け頂きました。

④和歌山の報恩講寺さんは、尼僧様がお守りされています。お寺に近くの高台にある「休暇村」に宿泊。翌朝、御朱印をわざわざお届け頂きました。

⑤香久山法然寺は、地元に根づいたおちついたお寺でした。詠歌を唱え、癒された時間を過ごさせていただきました。

⑥東大寺指図堂は、東大寺の奥にあり、大仏殿復興設計図を収めたお堂です。詠唱を唱えている時、言葉では表せない有難い気持ちになりました。

鎌倉大仏

月夜の別時念仏会 参加者

十月二十四日(水)

二十五日(木)

長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 鎌 港 鎌  
野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 野 倉 倉  
市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 区 市

大吉 玉木 齊黒 池藤 北近石 石宮 宮村 古土 佐佐  
川澤 木藤 藤岩 内森 沢藤 田島 嶋崎 松田 田屋  
貞勝 忠つる宇紀 光節 タツ都 博絹修 とよ子 喜淨 幸正 美智子  
子子男 子子子子子子一子 喜美江 光子 隆道 孝雄

横 横 横 横 横 横 横 武藏村山市 八王子市 調布 東村 世野 文渕 神神碧 長野市  
浜 浜 浜 浜 浜 浜 浜 山市 市市市市市市 日野 世田 田谷 区区区市市市市市市

林 東川 真早 真豊 豊諸 鎌志 佐大 近高 木張 後組 村松 村川 吉田 吉田 平林  
林 野鍋 水田 福福 澤尾 村藤 田藤 崎村 静藤 口松 添口 君代 君代 つや子  
サ ま な み 誠 亜希 孝雄 真久 正光 念義 真一 祐明 章裕 媛媛 洋知 年明 年明 比呂美  
ト ミ ト

佐 大 鎌倉 和 倉 市 市

葉 王 前 松 千代香 泽明慧 市川市  
麗 紅 蕾 所 淳富 津市

嬌 嬌 所 淳富 津市

酒井 正大 長島 南貴 龍昇 空美



鎌倉・高徳院



# 2019年 真生会・観智院・多聞院予定

真生会東京本部例会 每月4日・19日 11時～15時

(19日は13時半より「般若心経」写経または法話)

夕念佛の会 ..... 每月第2金曜日 19時～20時半

松禪院 念仏会 ..... 每月第1土曜・日曜 13時～ 比叡山飯室谷（宿泊可）

書道教室 ..... 每月第2・第4水曜 17時～（8月はお休み、12月は第1・第3）

茶道教室（表千家流） ..... 每月第2・第4土曜 10時から18時

そば打ち道場 ..... 每月第4土曜 10時～

佛教音楽教室 ..... 每月1回（あるいは2回）木曜13時

多聞院 老僧と若僧の念佛会 ..... 每月第2・4金曜日 13時～15時

多聞院 不断念佛会 ..... 每月第4金曜日 18時～21時

多聞院 お寺の漫画図書館 ..... 每週水曜17時～21時、毎週土曜10時～17時

1月4日(金)	修正会、新年会	11時～15時
2月2日(土)	鶴見念佛会（西浦邸）	11時～15時
2月3日(日)	佐藤孝隆上人七回忌	
2月16日(土)	第27回 一千札拝行	9時半～
3月2日(土)	音古の風（和楽器コンサート）	
3月6日(水)	東京教区詠唱奉納大会	13時～
3月7日(木)	土屋悦子夫人十三回忌	
3月23日(土)	春彼岸会（21日増上寺法話）	10時～
4月4日(木)	増上寺詠唱奉納大会	10時～
4月13日(土)～14日(日)	中野善英上人追善 松禪院念佛会	13時～
4月27日(土)～28日(日)	第14回 増上寺24時間不断念佛会	13時～
5月11日(土)～13日(月)	山崎弁栄上人百回忌法要	13時～
5月29日(水)～30日(木)	柏崎修養会（未定）	
6月7日(金)～8日(土)	六時礼讃 別時念佛会・礼拝・写経	18時～
6月23日(日)	光道上人三回忌	
7月10日(水)～16日(火)	お盆棚経	
8月1日(木)～5日(月)	唐沢山阿弥陀寺念佛修養会（4日例会休み）	14時～
9月15日(日)～17日(火)	比叡山松禪院仲秋念佛大会	13時～
9月21日(土)	秋彼岸会念佛法要	10時～
9月27日(金)～28日(土)	第8回 清淨華院24時間不断念佛会（未定）	13時～
10月11日(金)～20日(日)	念佛フェスティバル	14時～
10月14日(月)～15日(火)	鎌倉大仏さま月夜の別時会	18時～
10月18日(金)～20日(日)	真生同盟本部大会	11時～
10月26日(土)～27日(日)	伊勢市慶蔵院大念佛会	9時～
12月15日(日)	タラレバ供養・ボーネンヅツ会	13時～
12月19日(木)	真生本部例会納め会	11時～